

政策 04 安全で安心なまちづくり

施策 02 消防・救急体制の充実

あるべき姿

施策がめざす尾張旭市の姿
消防・救急活動が迅速に行われ、市民の生命や財産が守られています。

施策の成果状況と評価

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	火災損害額（千円） 【予防課】	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
		18,139	65,412	5,090	-	(比較不可)
評価	・平成30年の総火災件数は14件で平成29年と比較すると1件の増加となった。焼損棟数は4棟で前年より3棟の減少となり、建物の全焼も無かったことから大幅な損害額の減少となった。しかしながら、損害額は、火災の発生件数及び焼損棟数や収容物による要素が大きく、年ごとに変動がある。	(千円) 				対 前年度
		(比較不可)	目 標 達 成 度	(---)		

指標	心肺機能停止患者の生存率（％） 【消防署】	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
		9.7	8.1	8.1	-	(低下)
評価	平成30年の心肺機能停止患者搬送件数74件に対し、1ヶ月後の生存件数は6件となり、昨年度と同様に8.1％という結果であった。	(％) 				対 前年度
		(横ばい)	目 標 達 成 度	(---)		

基本事業の成果状況と評価

基本事業01 火災予防体制の充実

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	消火器を使うことのできる市民の割合（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【予防課】	44.8	41.9	41.3	50	☂ (低下)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の値は、平成29年度の41.9％から平成30年度は41.3％と0.6％減少している。 ・まちづくりアンケートクロス集計から年齢の若い女性（専業主婦・パート・アルバイト・学生）の割合が低いことが減少の要因と分析できる。 					対 前年度
		☂ (低下)	目標 達成度			
						(---)

基本事業01 火災予防体制の充実

指標	防火対象物の立入検査後の改善率（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【予防課】	58.1	74.1	73.0	60	☀ (向上)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の74.1％から平成30年度は73.0％と1.1％改善率は低下しているが、平成30年度目標値の60.0％は十分に達成できている。 ・目標達成の要因は、年間を通じて不備改善の追跡指導を実施していることが考えられる。 					対 前年度
		☂ (低下)	目標 達成度			
						☀ (達成)

基本事業02 消防力の強化

指標	尾張旭市出動要綱に基づく消防職員の充足率（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【消防総務課】	93.1	95.4	95.4	100	☁ (横ばい)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・尾張旭市出動要綱に基づく消防職員の充足率は前年同期比で横ばいの数値となっている。これは、平成30年度の新規採用職員が2名増員したが、退職者が1名と派遣職員が1名となったためである。 ・消防職員現有数/87人 平成28年度82人÷87人=94.3％ 平成29年度83人÷87人=95.4％ 平成30年度83人÷87人=95.4％ 					対 前年度
		☁ (横ばい)	目標 達成度			
						(---)

基本事業02 消防力の強化

指標	消防車の現場平均到着時間（分）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【消防署】	7.2	8.9	8.6	7.2	☂ (低下)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年に119番通報により出動した火災件数は14件（事後聞知火災2件）となり、消防車の現場平均到着時間は前年同期比0.3分短縮となった。これは平成29年度から「消防車の現場平均到着時間短縮に向けての計画」を基にした取り組みを継続的に実施したことが短縮に寄与したものであると考えられる。 1ここでいう「消防車の現場平均到着時間」は事後聞知火災を除いた火災において統計をとったものとする。 2事後聞知火災とは通報時は鎮火されていた火災のことをいう。 					対 前年度
		☀ (向上)	目標 達成度			
						(---)

基本事業02 消防力の強化

グラフの凡例 基準値及び目標値、実績値

指標	水利基準達成率（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【消防署】	89.7	90.9	91.1	90	☀️ (向上)
評価	・水利基準達成率は前年同期比で0.2％向上し、91.1％となった。これは基準値の対象となる消火栓を2基設置したことによるものである。 ・現状で目標値は達成しているが、今後も市内の道路変化や宅地開発が続くことが見込まれるため消防活動上有効な場所を検討し計画的に消火栓を設置していく必要がある。	(％) 				対 前年度
		☀️ (向上)	☀️ (向上)	☀️ (向上)	☀️ (向上)	☀️ (向上)

基本事業02 消防力の強化

指標	消防団員の充足率（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【消防総務課】	98.4	96.1	96.1	100	☔️ (低下)
評価	・消防団員の充足率は前年同期比で横ばいの数値となっている。 ・定員129名に対し、平成30年度当初は118名であったが、年度末には124名となった。また、次年度においても入団予定者が1名いるため、平成31年度当初は125名となり、7名の増員が見込めている。 ・継続的な消防団員加入促進活動や消防団員の支援制度である学生認証制度や消防団協力事業所制度の開始により、増員を図ることができている。	(％) 				対 前年度
		☔️ (横ばい)	☔️ (横ばい)	☔️ (横ばい)	☔️ (横ばい)	☔️ (横ばい)

基本事業03 救急・救助体制の充実

指標	救急車の現場平均到着時間（分）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【消防署】	6.5	6.7	6.8	6.3	☔️ (低下)
評価	・救急車の現場平均到着時間は前年同期比0.1分延伸となった。これは救急需要の増加によるものが一因であると考えられる。また、全国の現場到着所要時間の平均は8.6分で、愛知県内では、平均7.5分である。全国では10年前と比べ1.6分延伸している等救急を取り巻く社会環境の変化も影響していると考えられる。	(分) 				対 前年度
		☔️ (低下)	☔️ (低下)	☔️ (低下)	☔️ (低下)	☔️ (低下)

基本事業03 救急・救助体制の充実

指標	救急救命士の救急車同乗率（％）	基準値 (H24)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (H30)	対 基準値
	【消防署】	98.1	98.9	99.5	99	☀️ (向上)
評価	・救急救命士の救急車同乗率は前年同期比0.6％上昇の99.5％となった。これは、救急救命士の養成が計画的に実施できていることや、前年度実施した救急係員の増員体制（各係6名から7名へ）が成果に寄与していると考えられる。	(％) 				対 前年度
		☀️ (向上)	☀️ (向上)	☀️ (向上)	☀️ (向上)	☀️ (向上)

